

第4分科会

読み聞かせ講座

いま、えほんのちから

～被災地の子どもたちを支えたもの～

講師：大井 むつみ(東京家政大学講師)

今年度の読み聞かせ講座は、講師に大井先生をむかえ、「えほんのちから」をテーマに、講義をしていただき、東日本大震災で被災した子どもたちに思いを馳せ、今何ができるのか、「えほんのちから」とは何か、参加者 35 名一人一人が問い直す機会となりました。講座中「シリアスな時にこそ楽しい絵本」の視点で選んだ絵本を、読み手を次々と変えて読み聞かせをし、楽しんでいただきました。



<絵本を読む大人の視点から被災地を考える>

3.11 東日本大震災では、地震・津波・計画停電・物不足など、辛い体験をしましたが、早くも忘れかけてはいないでしょうか？

<楽しい絵本で心をほぐす>

- 『ハンダのびっくりプレゼント』アリン・ブラウン/作 光村教育図書 2006 (読み手：県職員)



- 『ゆかいなさんぽ』土方久功/作・絵 福音館書店 1977 (読：おはなしの会「虹」)

<被災地の子どもたち>

- ◆『つなみ—被災地の子ども 80 人の作文集』

(『文芸春秋』2011年8月臨時増刊号)

保育園から高校生までの子どもが書いた作文には、子どもたちの生々しい体験が綴られています。「(「しんさいにあって」「夢だったらいいな」「妹にやっと会えた」を紹介)

そんな被災地の子どもたちのために何かしたいと思っても、誰もがすぐに被災地に行けるわけではありません。でも「思い続ける」ことはできます。読み聞かせをする私たちには、想像力をもって被災地の子どもたちに長期にわたって思いを馳せ続けることができるか、が問われています。

- 『おおぐいひょうたん』吉沢葉子/再話 斎藤隆夫/絵 福音館書店 2005

(読：鴻巣よみきかせの会)

<子どもに本を>

今回は阪神淡路大震災に比べ、ユニセフをはじめ早くから「子どもに本を」の動きがありました。絵本や読み物が子どもの支えになるという認識が広まりつつあります。

<絵本の楽しさ>

読み聞かせは、「絵本って楽しいんだよ」と伝えるためにするものです。

- 『あしたうちにねこがくるの』石津ひろ

/文 ささめやゆき/絵 講談社 2000

- 『ねこガム』きむらよしお/作 福音館書店 2009 (読：講師)

子どもたちの笑顔は、大人が保障すべきことと再認識したいものです。楽しんだ時間の積み重ねが力となり、子どもの元気をはぐくむもののひとつになります。

- 『あくび』中川ひろたか/文 飯野和好

/絵 文溪堂 1999

(読：県)

- 『おひやくしょうとえんまさま』君島久子

/再話 佐藤忠良/画 福音館書店 1969

(読：虹)

<被災地での読み聞かせ>

被害の状況や事情により復旧の度合いも違

います。現地の読み聞かせの状況を聞いたところ、震災の前後で子どもたちに変化は感じないという報告もあります。選ぶ本にそれほど気をつかわなくても、子どもは素直に楽しんでくれるようです。一方、集団でいる時、また大人の前では悲しみを表さないのではないか、という言葉も聞かれました。

●『だるまさんが』 かがくいひろし/さく
ブロンズ新社 2008 (読：講)

自分たちのために絵本を読んでもくれる大人を子どもたちは無条件に信頼してくれるような気がします。生きようとする力のかたまりがグルグル渦巻いて止まることなく動いている。私たちはそれを絵本1冊で後押しすることができるのではないのでしょうか？

＜私たちに何が出来るか＞

被災地を思い続けるために、今、被災地に行かずにできるのは、私たち自身が楽しい絵本で元気になること、子どもたちに届けたい楽しい絵本をたくさん知っておくこと。いざ出番となったら、すぐに被災地に飛んでいくことができるように。



●『かえるをのんだ
ととさん』日野十成/
再話 斎藤隆夫/絵
福音館書店 2008
(読：鴻)

＜文化による復興＞

岩手県遠野で、続いて東京で「文化による復興支援シンポジウム」が行われました。東北は地域での人の結びつきが強く、「文化」は外から与えられるのではなく、そこに住む人が作り出していくものと考えているようです。そのような復興の状況を知る努力も必要です。「子ども」というのは目の前の子どもだけではありません。「読み聞かせをする人たち」として恥ずかしくないスタンスを持って子どもたちに向き合うことが必要です。

●『まのいいりょうし』 瀬田貞二/再話
赤羽末吉/画 福音館書店 1975 (読：講)

●『おはなししましょう』 谷川俊太郎/文
元永定正/絵 福音館書店 2011 (読：講)

読み聞かせを通して子どもたちから教わる部分はとても大きい。子どもたちが喜んでもう一度聞きたいと思うのは何か、鋭くアンテナを立て感性を磨き続けなければなりません。

＜おわりに＞

「楽しいから」を理由に絵本を選び、読み聞かせで使うことを不真面目と考えて、避ける空気があるようにも感じます。しかし、楽しさと明るさと温かさに包まれて子ども時代を送って何がいけないのか。無条件に楽しさを求め、満たされた体験が気持ちの弾力と厚みになり、その後の長い人生を過ごしていいのではないのでしょうか。楽しい絵本1冊が何か力になるに違いないと信じて、読み聞かせの活動を続け仲間を増やして行きたいと思っています。

●『おおきなおおきなおいも』 赤羽末吉/さく・え 福音館書店 (読：県)

【展示】



■おすすめしたい
楽しくなる絵本

■追悼特集

佐藤忠良絵本の世界



元永定正
絵本【配布資料】

- ・プログラム（絵本リスト）
- ・被災地へもっていききたい絵本
- ・佐藤忠良絵本作品リスト
- ・元永定正絵本作品リスト

分科会担当：青木さち子（おはなしの会「虹」）
園部恵津子（鴻巣よみきかせの会）